

第2回 市長と語るタウンミーティング実施報告書

担当部	行政管理部（防災安全課）
テーマ	みんなで考える、くにたちの防災・減災
日時	令和2年1月18日（土）14時～15時50分
場所	市役所3階大会議室
出席者	永見市長、橋本防災安全担当部長、古沢防災安全課長、土方防災・消防係長
参加者数	32名
主な意見	<p><防災・減災全般></p> <ul style="list-style-type: none"> 子ども向けの防災学習をもっと進めてほしい。 国立市には都心への通勤者が多く暮らしている。杉並などでは木密地域の火災の危険性もある。市外の防災にも目を向ける必要がある。 国立市の焼失率が高いことを初めて知った。 非常用バッテリーについて、プラグインハイブリッドカーの電源の活用が考えられる。 地域コミュニティが重要。学校の卒業生を活用してはどうか。 避難所となる学校は重要な拠点である。設備整備を進めてほしい。 <p><避難行動要支援者への対応></p> <ul style="list-style-type: none"> 多摩川沿いの福祉施設は、連携して避難するよう訓練すべき。 電動車いすや人工呼吸器のユーザーはバッテリーが不可欠。 市役所などには車いす用のトイレスペースがある。災害時にそのような機能のある公共施設に宿泊できないか。 耳が聞こえないと音声情報がわからない。電話・スマホ・無線に代わる情報伝達をしてほしい。避難した場合も避難所での情報がわからないと思うので配慮してほしい。在宅避難の場合も情報が入ってこない。 市でいろいろな施設と福祉避難所の協定を結んでいるが、運営方法が決まっていないと意味がない。 <p><災害時の情報伝達></p> <ul style="list-style-type: none"> 緊急時の防災無線からの放送が聞こえない。 コミュニティ無線を使った情報収集について、実用性を検証していきたい。
課題等	<ul style="list-style-type: none"> 配布資料の中で文字が小さく読みづらい箇所があった。別紙で渡すなどの工夫が必要。 意見を長く述べる方もおり、結果的に参加者全員から意見を聞けなかった。（80分で12名）質問時間を区切る等の工夫が必要。

<当日の様子>

